

fax 03-3595-6920 email t-hatsu@tokyo-np.co.jp

T 発

# 街並み守る

綱島

近所の邸宅が「空き家」になったら？ 防災面で危険だから早く壊してもらった方がいい、という声もあるが、親しんできた景観が消えてしまうのは寂しい。そこで一つの解決策。空き家に手を入れ「地域のランドマーク」に再生することを提唱する人たちがいる。



2階の店舗。天井には古い梁(はり)が見える

文・小形佳奈／写真  
・川上智世／紙面構成  
・芳賀宏樹

# 空き家再生 シンボルに



①庭に茂る草木を抜き、姿を現した改装前の民家

②「TSUNASHIMA CABIN」に。1階はフレンチ



横浜市港北区の東急東横線綱島駅から徒歩三分、商店街の一角に四角いハコを

二つ積んだような昭和のモダンイズム風住宅が立つ。一階はフレンチレストラン、二階は不動産会社の事務所。壁に「TSUNASHIMA CABIN」と書かれたネオン看板がある。

「工事中、近所の人からは『何ができるの?』と聞かれたり、完成したら通りかかった子どもが『お化け屋敷がお店になってるよ!』なんて。建物が地域に親しまれていたことを実感しました」

再生を手がけた「木賃デベロッパ

メント(木デベ)メンバーで不動産コンサルタントの田中歩さん(四七)は言う。

築五十年近い木造住宅は所有者が別の場所に住み、草木が生い茂るまま放置されていた。現在のオーナーはここを買い取った後、すぐにビルに建て替えようと思っていた。相談されたのが、田中さんだった。

「木デベ」の仲間の建築家内山章さん(四七)、住宅や店舗の施工を手掛ける福井信行さん(三三)に物件を見せ、相談した。古くても骨組みはしっかりしていた。建物をそのまま生かして改装すれば街並みを守ることにもつなげると意見が一致した。地元

## かつて「お化け屋敷!?!」

に住むオーナーは即決してくれた。壁や床を解体して断熱と耐震補強を施し、庭は板張りのテラスに。タイル張りの玄関から木の階段を上がった「綱島不動産マーケット」の宮永翔さん(五五)は「お客さんからは『人の家に来たみたい』と言われるです」。事務所を二階に構えるのは冒險だったが、一軒家のたたずまいにひかれてか客足は増えたという。

内山さんは「古い物件には味わい深さと、長年ここにあるという地域の認知度で、新築よりアドバンテージがある。今ある物を生かし、性能のいい中古に価値が付く住宅産業を成立させていきたい」と話す。

## 「縁起良い」幕末広まる

菓向時  
江戸民金  
生粹の庶  
年間、庶  
面だった

も腹が割れ  
に通じると喜  
当の石倉賢一  
、風味も日持  
は画期的な菓

名物「濱名納

唐

命名し、『あ  
呼ぶた。一定  
て定

が主た始め  
にその悩み  
売。前(施)